

# 春翔再生3連勝

# 紙相撲新聞

第155回本場所  
初日～三日目号

編集・発行  
日本紙相撲協会

## 美空、新大関千代鈴も連勝スタート

## 若嶋、佐賀海は黒星先行と苦しい展開

【第一百五十五回本場所初日～三日目】

令和4年初めての本場所、第155回本場所が1月22日に開幕した。今場所は、先場所優勝した千代鈴が大関に昇進、3横綱2大関が元気に顔を揃えて初日を迎え、三日目まで行ない、横綱春ノ翔、関脇大神楽、平幕の鉄甲雪若丸、生駒山、西安の6人が3連勝とした。

先々場所に負け越し、先場所も途中で休場で心配された横綱春ノ翔は体調も戻り、年末年始返上で稽古に励んで鋭い出足が復活した。また、横綱美空富



↑三日目、春ノ翔は難敵白閃光を力相撲で押し切り、正面土俵に一気に運んで相撲を取らせず、復活の雄叫びをあげた。

↓千代鈴は新大関のプレッシャーの中、初日から連勝するも三日目出羽翼に初黒星を喫した。



目に小結出羽翼のど輪の奇襲に敗れて大関として初黒星を喫した。



大綱嵐●(寄り切り)○千代鈴

士はかつての相撲は取れないながらも、瘦せたのが功を奏しての取り口で親方を安心させた。

新大関の千代鈴は廻しを新調し体重も8kg増え、場所前も部屋に帰って稽古も十分。万全の体調で場所に臨み、初日、二日目と安定感のある大関相撲をみせたが、三日

一方で、横綱若嶋が初日からまさかの大敗。赤信号が灯った。若嶋の連敗は横綱3場所目の第137日連続の初日何となく初日の対戦となった大綱嵐風にとつて3連敗は免れたが、若嶋らしい出足がみられていない。



若ノ嶋●(押し倒し)○出羽翼

また、カド番の大関佐賀ノ海が3連敗と、先場所からの不調に歯止めがからまない不安な出だしとなった。部屋横綱大関の躰きに、「四日目が初日のつもりで、気持ち新たに気合いを入れさせよう！」と錦風親方は神妙な面持ちで語った。

平幕では、勝間田部屋の鉄甲雪若丸の小兵コンビが元氣な相撲をみせた。特別頭四枚目に躍進して、前頭上級の鉄甲の相撲が注目の通接し



鉄甲○(寄り切り)●照の王

たい。また、雪若丸とともに新入幕の西安も好スタートを切った。

三日目までの相撲を見たところでは、優勝争いは横綱春ノ翔、大関千代鈴を中心に展開しそうだ。「今場所の優勝は8勝3敗あたりではないでしょうか」と春日根親方が予想するが、そういった混戦になるのか、はたまた、誰かが抜きん出て優勝を果たすのか、これからの相撲が楽しみだ。

(錦風)

### 十両は暫が連覇に向けて好発進

十両も三日目まで行われ、3連勝としたのは、暫、初戸、宇治家は、暫の4人。中でも磯自慢の4人。中でも先場所優勝の暫は左右からの多彩な万全の取り口を見せ、連続優勝に向けて死闘を、見当たりそうにない。今場所も断トツの優勝候補だ。

先場所から番付を東三枚目まで戻し再び幕内を狙えるところまできた初戸は初日からエリオン全開だ。なぜなら、来場所こそは幕に返り咲きを務めたいとの目標があるからだ。絶対のスタートを切ったが果たしてその願いは叶うのか、まずは勝ち越しが先決となる。

新十両から下位に低迷していた宇治家が十両4場所目にしてようやく自己最高位の六枚目以上に上り、上位を伺いそうなの勢いだ。十九部屋の関取の中で、遅れをとっていたが、徐々に十両の土俵にも期待目から相撲にも期待である。

そして新十両の磯自慢。先場所幕下で優勝し一気に関取の座を掴み遅咲きというが、突然変異的に実力を開花させた。3日間とも左相手を寄せ付けず十両でも十分通用する十両を見せた。

(勝間田)



磯自慢○(寄り切り)●琴乃王



宇治家○(寄り切り)●柏陵山



初戸○(引き落し)●勝ノ川



葵盛●(寄り切り)○暫